

科目名		授業形態	担当教員名	
病理学・口腔病理学		講義	重岡 学	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 2 単位）		15 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
【病理学総論】 病気の原因と発生機序、それに伴う形態学的変化の体系の基礎を講義する。 【口腔病理学】 顎口腔に見出される主要な疾病に関する講義を行う。				
授業の到達目標				
【病理学総論】 様々な病的刺激(病因)に対して惹起される生体反応が遺伝性疾患と奇形、循環障害、代謝障害と退行性病変、増殖と修復、炎症と免疫反応および腫瘍に分類されることを理解し、それぞれの形態学的特徴と病理発生が説明できる。		【口腔病理学】 ヒトの顎口腔に発生する様々な疾患の病因、病理発生、病理形態学的変化を病理学総論の概念に従って説明することができる。主要な病変については臨床との関係を重視しつつ把握する。		
授業計画				
回	内容			
1	Ⅰ編 病理学総論 1章・2章（病理学序論と病因論／遺伝性疾患と奇形）			
2	Ⅰ編 病理学総論 3章（循環障害）			
3	Ⅰ編 病理学総論 4章・5章（代謝障害と退行性病変／増殖と修復）			
4	Ⅰ編 病理学総論 6章（炎症と免疫応答）			
5	Ⅰ編 病理学総論 7章（腫瘍）			
6	Ⅱ編 口腔病理学 1章・2章（歯の発育異常／歯の損傷と着色・付着物）			
7	Ⅱ編 口腔病理学 3章（う蝕）			
8	Ⅱ編 口腔病理学 4章（象牙質・歯髄複合体の病態）			
9	Ⅱ編 口腔病理学 5章（歯周組織の病態）			
10	Ⅱ編 口腔病理学 6章（口腔粘膜の病変）			
11	Ⅱ編 口腔病理学 7章・8章（口腔領域の嚢胞と腫瘍／口腔癌）①			
12	Ⅱ編 口腔病理学 7章・8章（口腔領域の嚢胞と腫瘍／口腔癌）②			
13	Ⅱ編 口腔病理学 9章・10章（顎骨の病変／唾液腺の病変）			
14	Ⅱ編 口腔病理学 11章・12章（口腔の奇形／口腔組織の加齢変化）			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	90%			
レポート・課題				
小テスト				
平常点	10%			
その他				
自由記載				
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学		全国歯科衛生士教育協議会	医歯薬出版株式会社	
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
なし				
自由記載				
備考				